



岐阜経済大学 経済学部

一般教育 情報処理学科

本学は講座制を採っておりませんので、研究室だよりとは言えませんが、本学の簡単な紹介と近況をご報告いたします。

本学は、大垣市の中心から少し外れた田園地帯にあり、非常にのどかで静かな環境に恵まれた大学であります。今風のファッション的な要素はありませんが、勉学するには絶好の環境です。現在は、経済学部経済学科のみの単科大学であり、また設立されて18年と歴史も浅く、いわば成長期にある大学です。新校舎建設もこの夏からはじまり、より充実した勉学の環境を学生に提供できる日も間近いものと思われます。

本学は、今まで情報処理関係の科目へのとりくみが遅れておりましたが、社会情勢が情報化、国際化に向かって急速に進んでいる今日、これに少しでも対応できるように、昨年度情報処理教育用にパソコン15台を導入して、情報処理実習室が設置されました。コンピュータの導入は数年前から検討されてきましたが、ここにきてようやくその一部が実現したというところです。

また情報処理関係の科目として、情報処理Ⅰ、Ⅱ（一般教育科目、自然科学分野）、情報論（一般教育科目、総合分野）が今年度より開講となりました。情報化社会を反映してか、これらの科目の受講生も非常に多く、特にパソコンを実際に操作してプログラム言語を学習する情報処理Ⅰ、Ⅱでは、定員30名（1台のパソコンに最高2名として）の3倍強の希望者があり、学生の希望を満足にかなえられないという状況にあります。しかし来年度は情報処理の担当教員がさらに1名増員され、このような問題はいくぶんかは緩和できるものと思われます。また今年度、名古屋大学大型計算機センターとの端局（TSS端末2台）が開設予定であり、計算機ユーザーのための環境も徐々にではありますが整備されつつある、といった状況です。なお、新学科が開設されますと、情報管理論、プログラミング、情報システム論などの講義も開設されることと思われますので、教育・研究の面においても、それぞれ充実してくるものと思われます。

（吉弘 貴）

名古屋大学 工学部

土木工学科 土木計画学研究室

土木工学科は昭和36年4月に設置され、構造力学・土質力学・水理学・土木計画学・土木設計学・土木施工学の6講座と共通講座の情報検索学の計7講座で構成されている。なお、実際の運営は4講座からなる地盤工学専攻（大学院のみ）と共同で行なっている。

土木工学科の学生定員は学部40名、大学院博士課程前期（修士）18名、後期（博士）7名である。

以下では、土木工学科の1講座である土木計画学講座のスタッフと研究内容について紹介する。

1. 講座のスタッフ

教授 河上省吾 助教授 林 良嗣
助手 広嶋康裕 磯部友彦 技官 桐山義郎

2. 研究テーマ

最近10年間の研究室のテーマは、①交通圏、パークア

ンドライド方式の成立条件、バスレーン、および交通制御の交通流に与える影響解析などの交通実態分析、②交通分担率予測モデル、③分布・分担・配分過程を結合した交通量の一貫予測モデル、④自動車と公共輸送機関の最適分担率の決定や交通網の評価などを目的とする最適交通網策定システムの開発、⑤交通施設の環境影響評価法、⑥交通サービスの非集計評価構造分析および利用者の非集計手段転換行動モデル、⑦トリップチェイン分析とそれを用いた予測モデル、⑧バス輸送システムの計画策定法、⑨土地利用—交通モデル、⑩地価、住宅立地、産業立地の非集計分析モデル、⑪社会基盤施設の社会経済効果分析などである。

従来の研究が主として、交通現象の調査・分析、交通需要予測法の開発、環境影響評価などに重点が置かれて